

輝き

三木市立三木特別支援学校 学校通信 No.4 令和5年6月30日

校外合宿が終わりました

6月20日(火)と21日(水)に校外合宿を行いました。行先は神戸市北区のしあわせの村です。中学部の生徒の一部は神姫バスと神戸電鉄を乗り継ぎ、西鈴蘭台駅まで行きました。公共交通機関を利用する機会が少ないため、料金を払うことや切符を買うことに戸惑っていた生徒もいました。療育手帳を利用する生徒は、手帳の提示もするためなかなか大変な作業です。それでも、何とかやり遂げていました。

しあわせの村に着いてからは、お弁当を食べて、ウォークラリーをしました。入所式後には屋内でのレクリエーション、夕食後にはキャンドルサービスもありました。それらの活動の様子を見てみると、子どもたちがいろいろなかたちで関り合っていることに感心しました。学級の友だちはもちろんですが、中学部の生徒が小学部の子を労わるようにじっと見ていたり、何気なく寄り添ったりしています。小学部の児童も中学部のお兄さんお姉さんを頼りにしているようで、笑顔で近づいて行っていました。普段ではあまり見られない一面を発見することができるいい機会になりました。

合宿には児童生徒全員が参加できました。そして、全員が無事に帰ってきました。保護者の皆様には、事前の健康管理からご協力いただき感謝いたします。これからもどうぞよろしく願いいたします。

新しいことにチャレンジする機会に

1学期も20日余りになりました。短い期

間ですが、この時期はこれまでとは違ったことに取り組みやすい時期です。その一例が自力通学練習です。下校時にバスや電車を利用します。コロナ感染を以前ほどには気にしなくてもよくなってきています。子どもたちにとって、何か新しいことや何かいいことを保護者と学校と関係機関とで考えていきましょう。

50周年に向けて

小野特別支援学校と加西特別支援学校の学校長と3人で、情報交換をする機会がありました。市立の知的障害の特別支援学校ですから、共通した特徴や課題を認識できるいい機会になりました。

話の中で、50周年をどのように迎えるかが話題になりました。開校年度は、三木特別支援学校が昭和49年、小野特別支援学校が昭和50年、加西特別支援学校が昭和51年です。まずは本校が令和6年度に50周年を迎えます。

3校は、文部省が都道府県に養護学校を設置するように通達を出す以前に開校しています。つまり地域の方々の「子どもたちを学校に行かせたい」という切なる願いが実を結んだのがこの3校です。私たちはそのような先人の熱い思いや願いを受け、次世代につなげる役目があると感じています。その機会の一つに50周年事業を位置づけたいと考えています。具体的な時期や内容はこれから時間をかけて検討していきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

校長 橋本 泰一